

2014年3月期 上期 決算概要

テルモ株式会社
上席執行役員 経営企画室長

羽田野 彰士

2013年11月6日

上期決算ハイライト

連結

- 売上・利益ともに想定通りの進捗
- 四半期毎の利益改善は着実に進む

心臓血管

- カテーテル事業は欧米で二桁伸長を継続
- ペリフェラル戦略製品ミサゴが国内で好調を維持
- ニューロはパイプライン製品を着実にローンチ
- 品質システム改善投資は年度末完了に向け進捗

血液

- 急激な市場環境変化の下でも堅調に推移

ホスピタル

- 生産性改善を推進

決算概要：増収増益を達成

(億円)

	13/3期上期	14/3期上期	増減率
売上高	1,918	2,260	+18%
粗利益	1,005 (52.4%)	1,172 (51.8%)	+17%
一般管理費	599 (31.2%)	714 (31.5%)	+19%
開発費	124 (6.5%)	153 (6.8%)	+23%
営業利益	282 (14.7%)	305 (13.5%)	+8%
(のれん等償却除く)	348 (18.1%)	385 (17.0%)	+11%
経常利益	242 (12.6%)	296 (13.1%)	+22%
純利益	145 (7.6%)	195 (8.6%)	+34%
EBITDA (営利+償却費)	437	493	+13%

期中平均レート

US\$ 79円
EUR 101円

99円
130円

事業別 地域別 売上高と伸長率

カテーテルは欧米で二桁伸長継続

(億円)

事業 セグメント	日本	海外 計					合計
			欧州	米州	中国	アジア	
ホスピタル	627 (3%)	184 (2%)	56 (-10%)	44 (1%)	6 (-16%)	79 (15%)	812 (2%)
心臓血管	242 (6%)	766 (6%)	280 (6%)	315 (7%)	88 (13%)	83 (-3%)	1,008 (6%)
うちカテーテル	188 (8%)	566 (9%)	218 (10%)	200 (10%)	83 (13%)	65 (2%)	754 (9%)
血液 システム	63 (5%)	378 (6%)	119 (4%)	183 (4%)	18 (14%)	58 (19%)	441 (6%)
合計	932 (3%)	1,329 (6%)	456 (3%)	541 (5%)	112 (11%)	219 (8%)	2,260 (5%)

下段()内は為替影響除く対前年同期伸長率及び前年在宅事業を除く

販管費

一般管理費は売上伸長の範囲内にコントロール
研究開発費は注力分野に投入

(億円)

	13/3期上期*	14/3期上期	増減	増減率
一般管理費計	689	714	+25	+4%
研究開発費	138	153	+15	+11%
販管費合計	827	867	+40	+5%

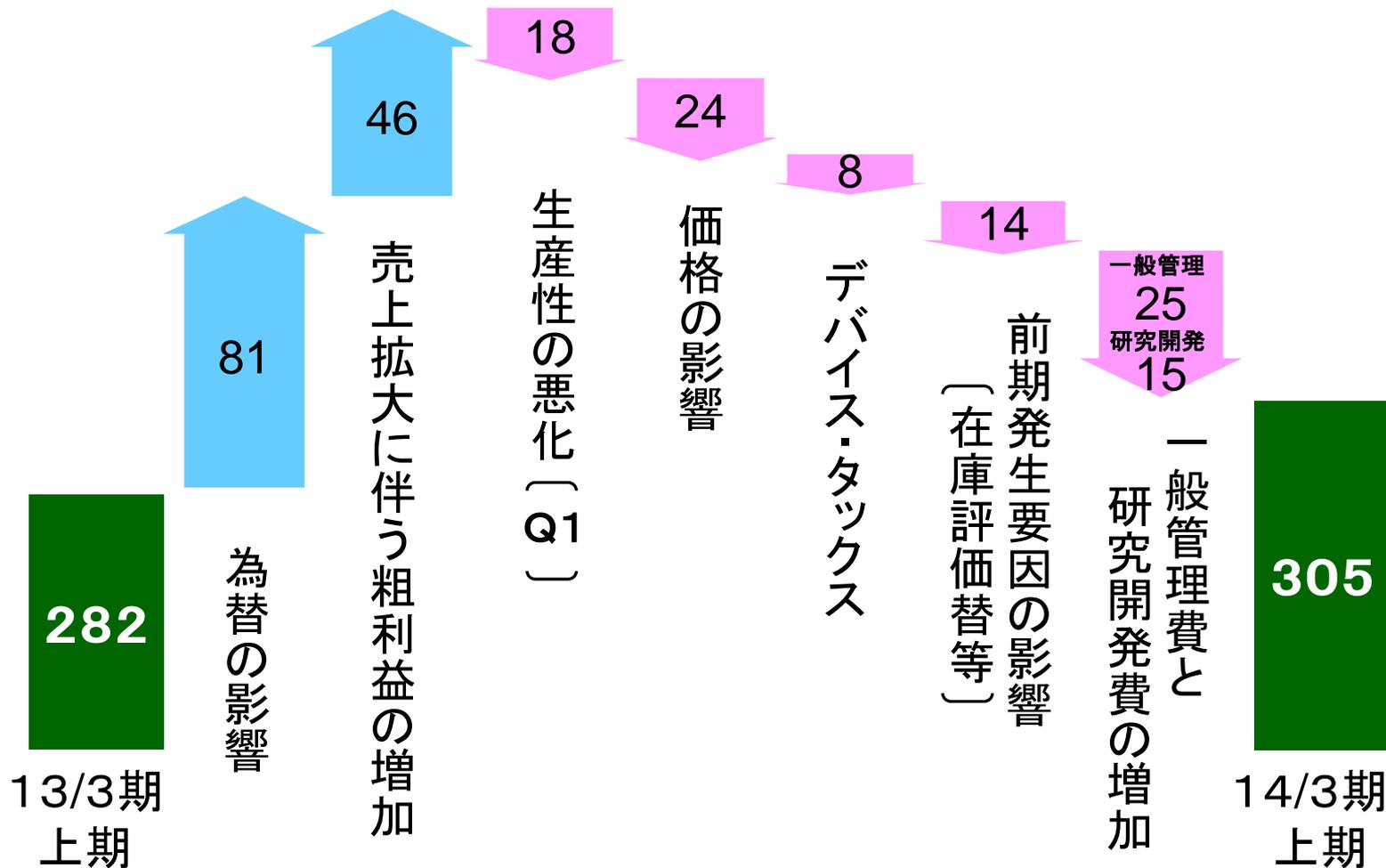
* : 為替の影響を除いた換算値

- 米州のカテ、ニューロ販売力の強化
- ニューロ新製品、血液システム(治療アフエレーシス・血液自動製剤システム)へ開発費を投下

営業利益増減分析

心臓血管・血液システムの売上拡大
生産性の着実な改善

(億円)



四半期の動き

収益率を着実に改善

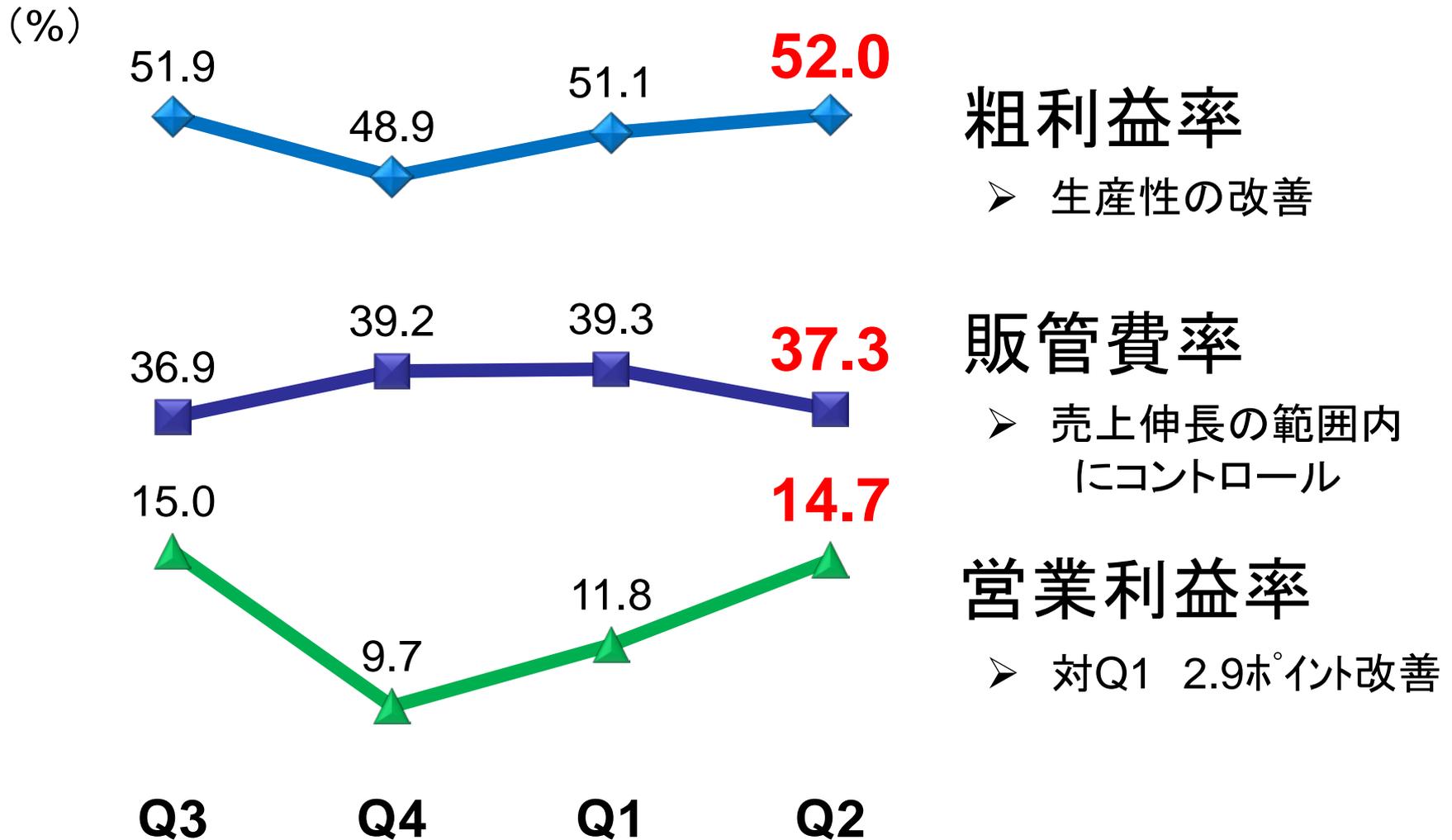
(億円)

	FY12Q2 (7-9月)	Q3 (10-12月)	Q4 (1-3月)	FY13Q1 (4-6月)	Q2 (7-9月)
売上高	960	1,039	1,065	1,111	1,149
粗利益	488 (50.9%)	529 (50.9%)	522 (49.0%)	570 (51.3%)	601 (52.3%)
販管費	361 (37.6%)	385 (37.0%)	416 (39.1%)	437 (39.3%)	430 (37.4%)
営業利益	127 (13.3%)	144 (13.9%)	106 (9.9%)	133 (12.0%)	171 (14.9%)

期中平均レート	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2
US\$	79円	81円	92円	99円	99円
EUR	98円	105円	122円	129円	131円

粗利益率、販管費率、営業利益率

為替影響を除いても収益率を着実に改善



(為替の影響を除く、各四半期の3ヶ月単位)

上期業績予想の進捗状況

想定通りの進捗

(億円)

	上期業績予想	上期実績	増減	対予想比
売上高	2, 220	2, 260	+40	102%
営業利益	300 (13.5%)	305 (13.5%)	+ 5	102%
経常利益	285 (12.8%)	296 (13.1%)	+11	104%
純利益	190 (8.6%)	195 (8.6%)	+ 5	103%

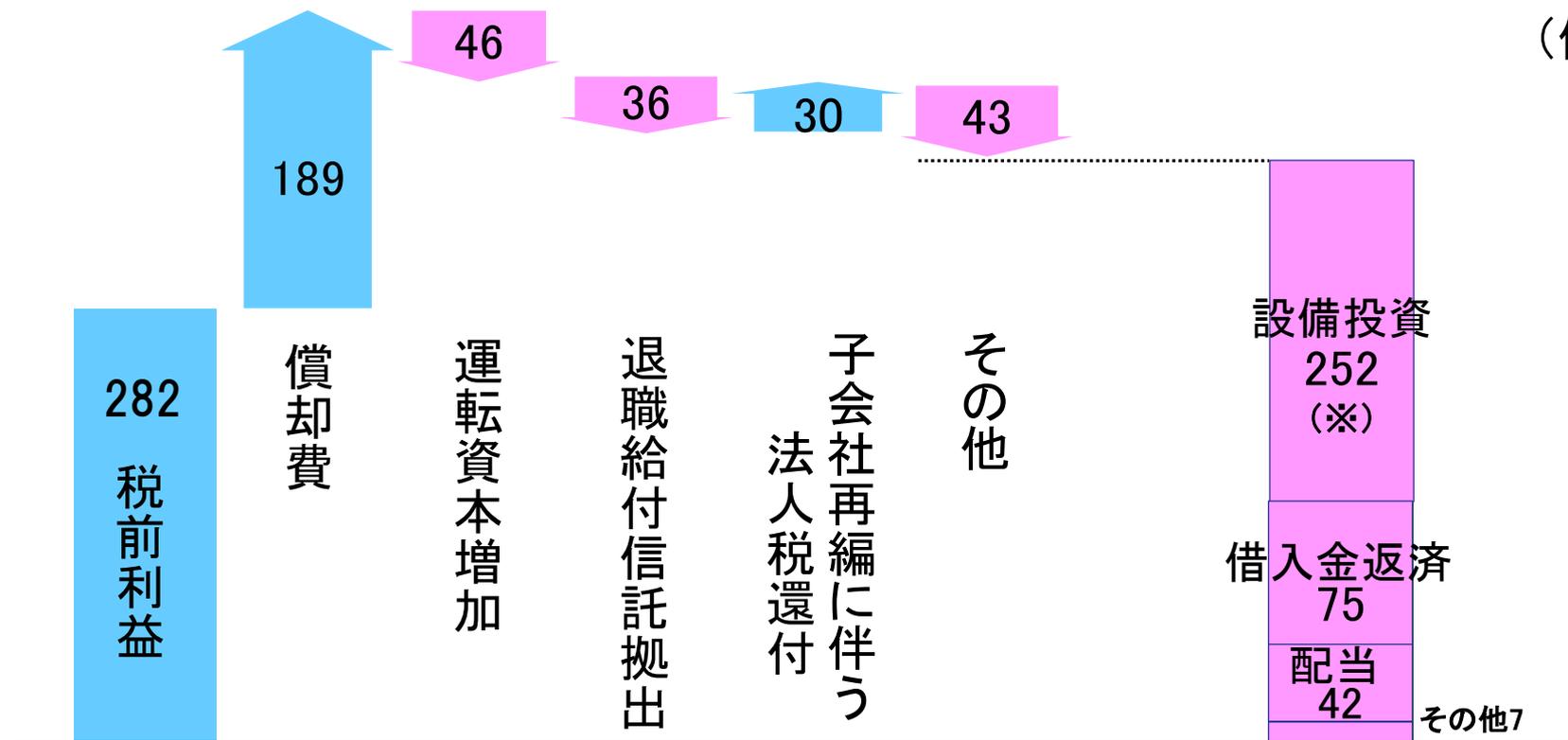
期中平均レート	見通し	実績
US\$	95円	99円
EUR	123円	130円

営業キャッシュフロー

営業キャッシュフロー内訳 376

使途 376

(億円)



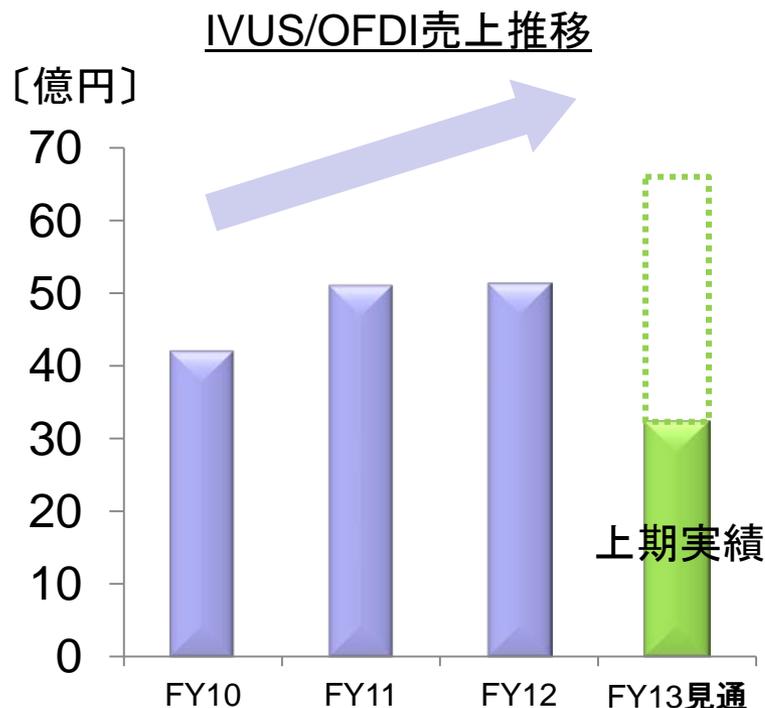
※14/3期上期取得ベース

上期と下期の取り組み

国内IVUSを好調に拡大(上期28億円、シェア30%)

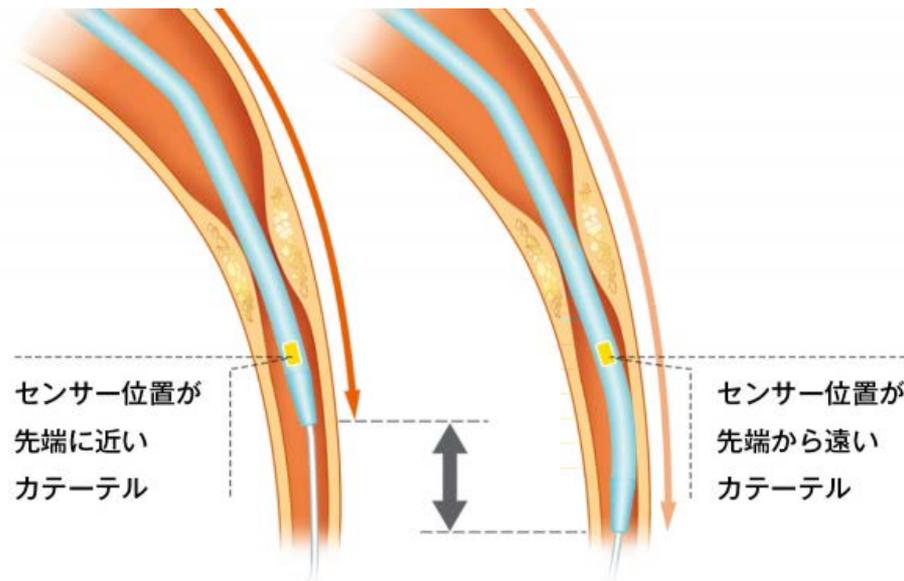
■ 高い精度の画像診断によりPCIの治療戦略をサポート

- 新型IVUSカテーテル投入(センサー位置を先端により近く)
 - 従来型では観察できなかった病変へ到達可能に
- IVUSを軸にステント・バルーンとのバンドリングで拡販
- 世界で唯一 IVUS/OFDIを展開、画像を軸にPCIの拡大を目指す



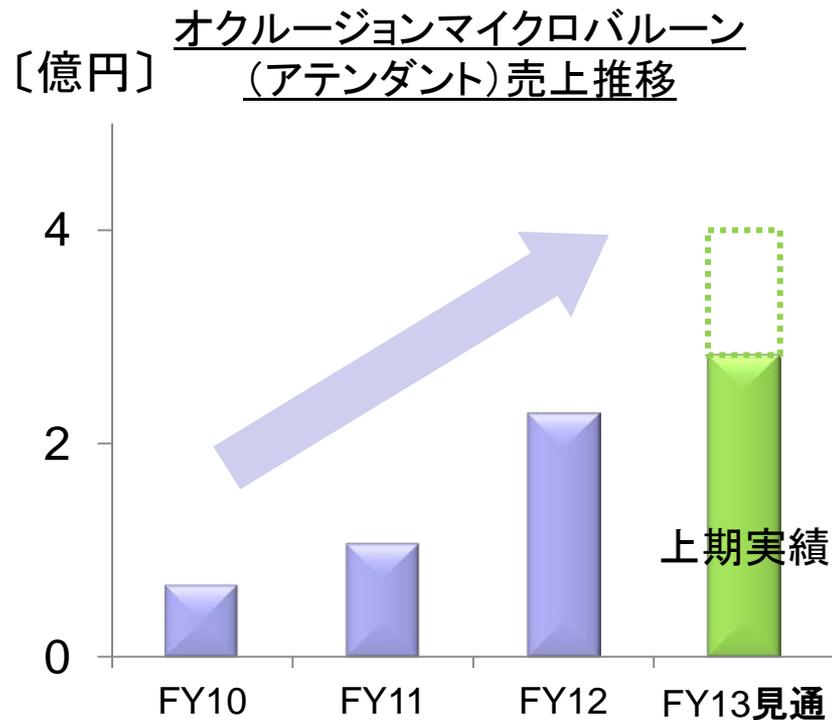
新型IVUSカテーテル
NavifocusWR

従来品



肝臓がんバルーン分野に参入(上期 3億円)

- バルーンで一時的に血管を塞栓、抗がん剤を効果的に注入し、腫瘍を壊死させる治療法「B-TACE」の普及
- 従来品より先端が細く、末梢血管への到達性が評価される



血液システムは新製品により着実に拡大(上期6%伸長)

■ 全血で製剤化プロセス自動化の提案

- 自動化で時間短縮・省力化・省スペース・製剤品質均一化
- 全世界の製剤プロセスに対応

採血効率向上・作業効率向上

全血



TACSI /
Reveos

■ 血漿交換・細胞治療システムの拡大

- 高シェア製品COBE SpectraからOptiaへのアップグレード促進
- プロトコール開発による適用疾患拡大・治療法多様化への対応



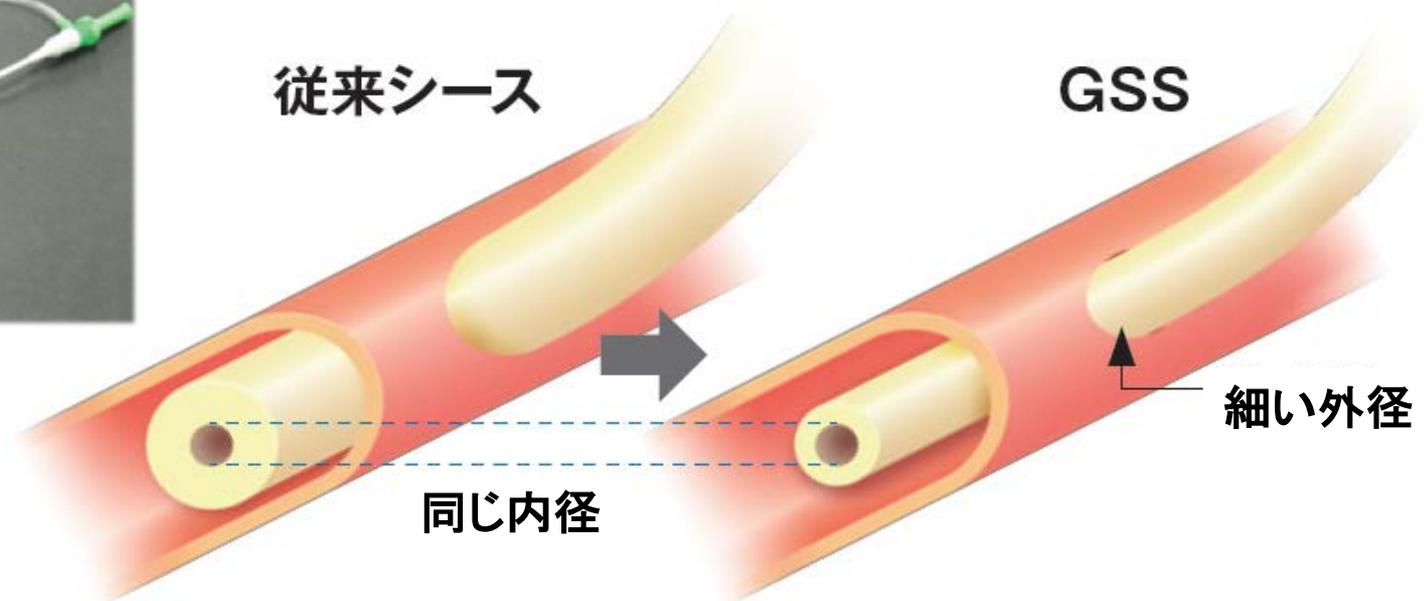
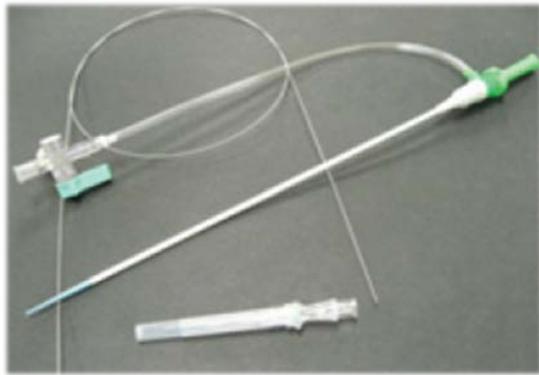
Optia

上期に中計新製品を着実にローンチ

領域	製品	FY13	Q1	Q2
ペリフェラル	ステント(膝上)	日	●	
脳	血流改変ステント	欧	●	
	オクルージョン・バルーン	日	●	
心臓	OFDI(血管内画像診断装置)	日	●	
	TRI用細物シース	米		●
アブレーション	腎除神経カテーテル	欧	●	
	TRI用腎除神経カテーテル	欧		●
血液システム	血液自動製剤システム(PRP法)	欧	●	
	血液自動製剤システム(BC法)	欧	●	
	細胞治療用装置(骨髄幹細胞対応)	日		●
輸液システム	安全機構付き静脈留置針	米・亜	●	
	スマートポンプ	欧	●	

TRI用シース : Glidesheath Slender (GSS)

- 高齢者・女性など動脈の細い患者をTRI対象へ
 - 内径をそのままに外径を細径化
 - 血管内壁損傷のリスクを低減、止血時間の短縮へ
- 2014年度に10億円の売上を目指す



下期の主な取り組み

■ 新製品・既存製品による売上拡大

- 中計パイプライン製品の確実なローンチ
- 既存製品の販売拡大
 - 心臓血管: TRI関連製品投入によるアクセスの継続拡大
 - ホスピタル: スマートポンプのグローバルでの導入促進
 - 血液: 欧州での血液自動製剤システムの拡大

■ TCVS品質システム改善活動

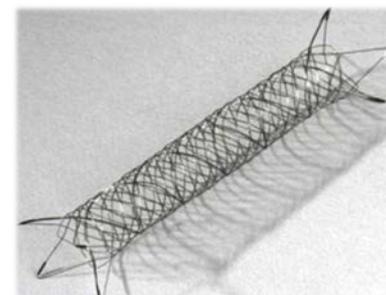
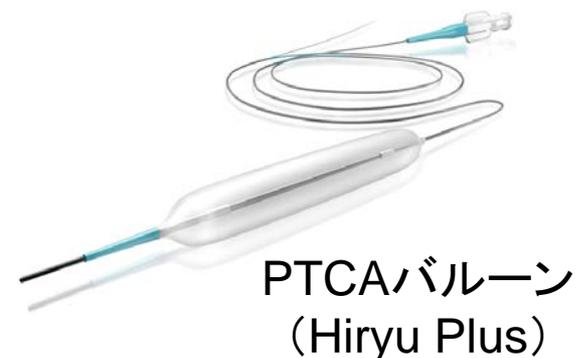
- 投資: 上期 27億円、下期は半減へ
- 来年3月に販売制限解除予定

■ ホスピタル事業の生産性改善

- 新製品の量産化、海外工場移管によるコスト低減

下期のパイプライン製品のローンチ予定

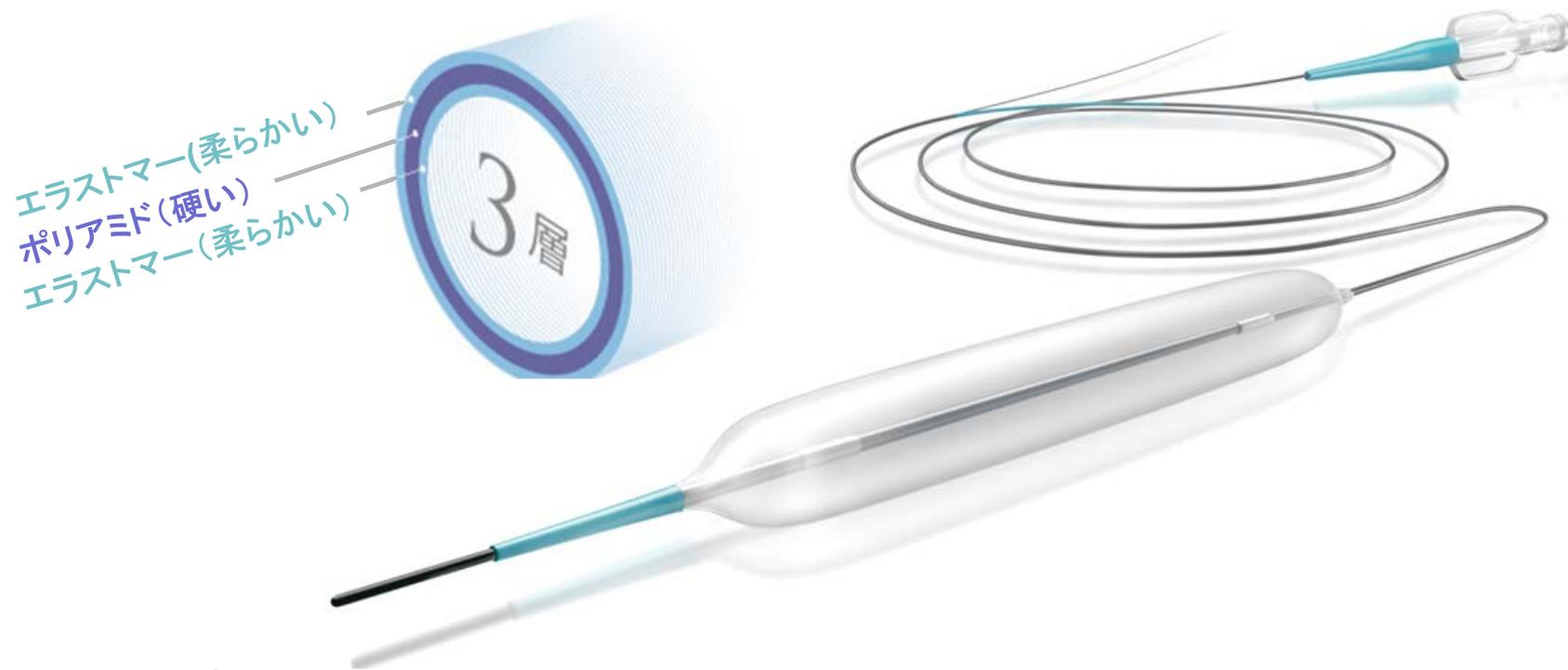
領域	製品	地域
ペリフェラル	バルーン(膝下)	欧
	ステント(膝下)	欧
脳	コイルアシスト・ステント	中国
心臓	新PTCAバルーン	日
	TRI用細物シース	日
血液システム	成分採血装置(血漿採血対応)	日
	統合データ管理システム(TACSI対応)	欧
輸液システム	閉鎖式輸液ライン	日
	スマートポンプ	亜



コイルアシストステント (LVIS)

PTCAバルーン（Hiryu Plus）

- 国内最先端技術の導入で成熟市場で差別化を図る
 - 3層構造バルーンで耐圧性と柔軟性を両立
 - シャフト構造を改良し、システム全体の操作性を向上
- 2014年度に16億円の売上を目指す



通期業績予想は変更なし

(億円)

	14/3期 予想	対前年 増減率
売上高	4,600	+14%
営業利益	700 (15.2%)	+32%
(のれん等償却除く)	850 (18.5%)	+27%
経常利益	675	+31%
純利益	420	-11%

下期想定レート

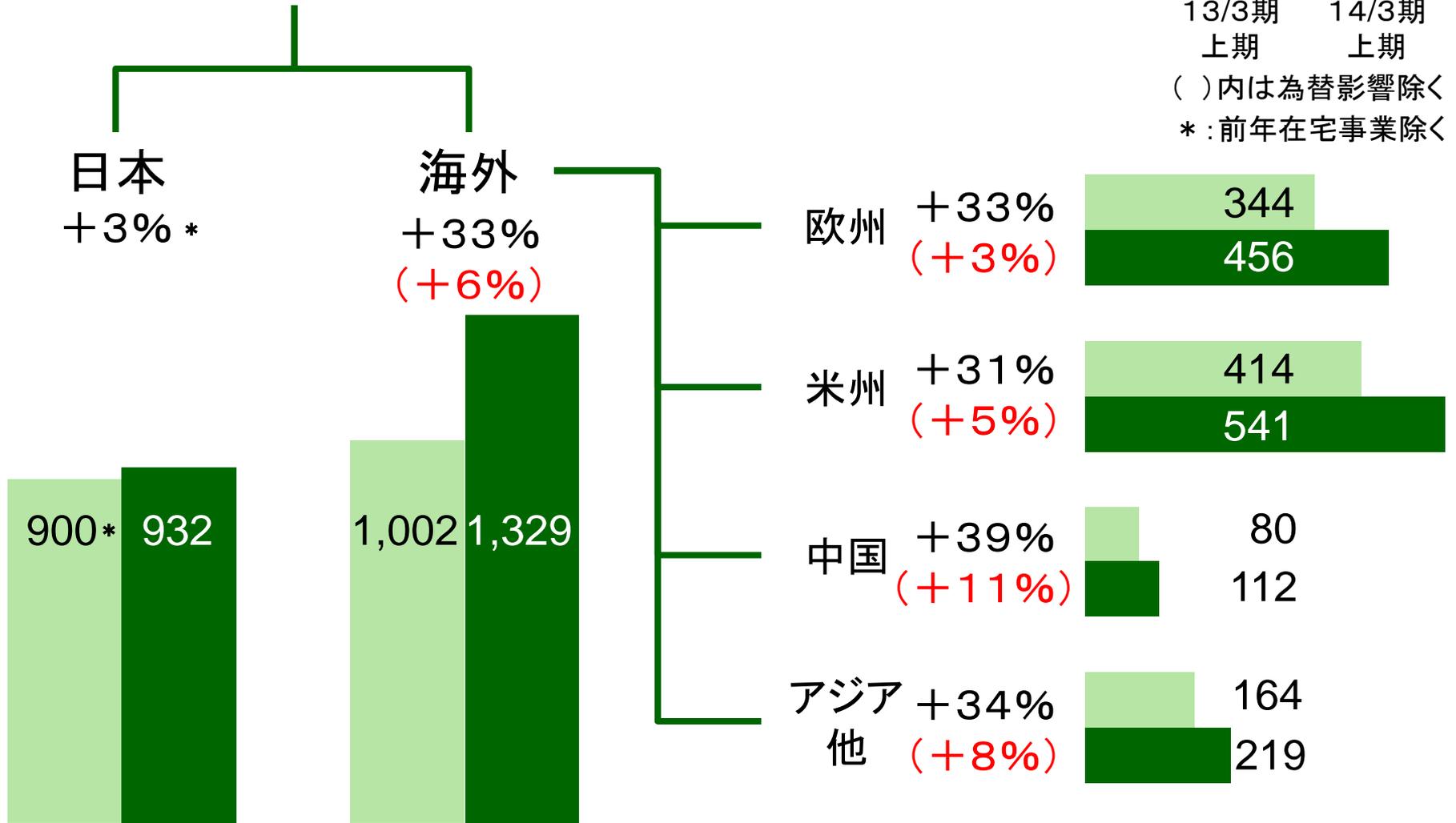
米ドル 95円

ユーロ 123円

参考資料

売上高 地域別

連結: +19% (+5%)*



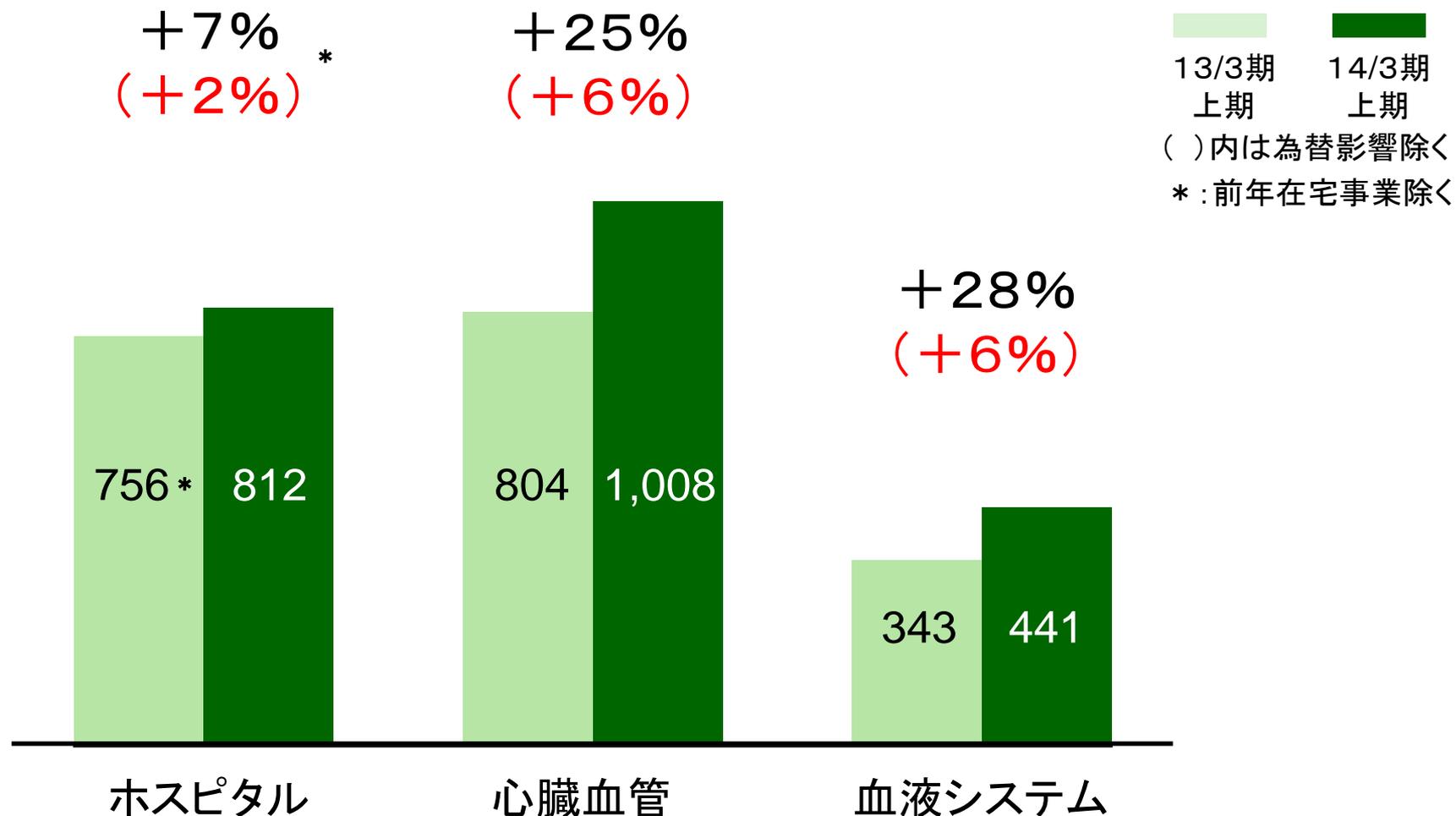
(億円)

13/3期 14/3期
上期 上期

()内は為替影響除く
*:前年在宅事業除く

売上高 事業セグメント別

(億円)



事業別 地域別売上高と伸長率 (Q2のみ)

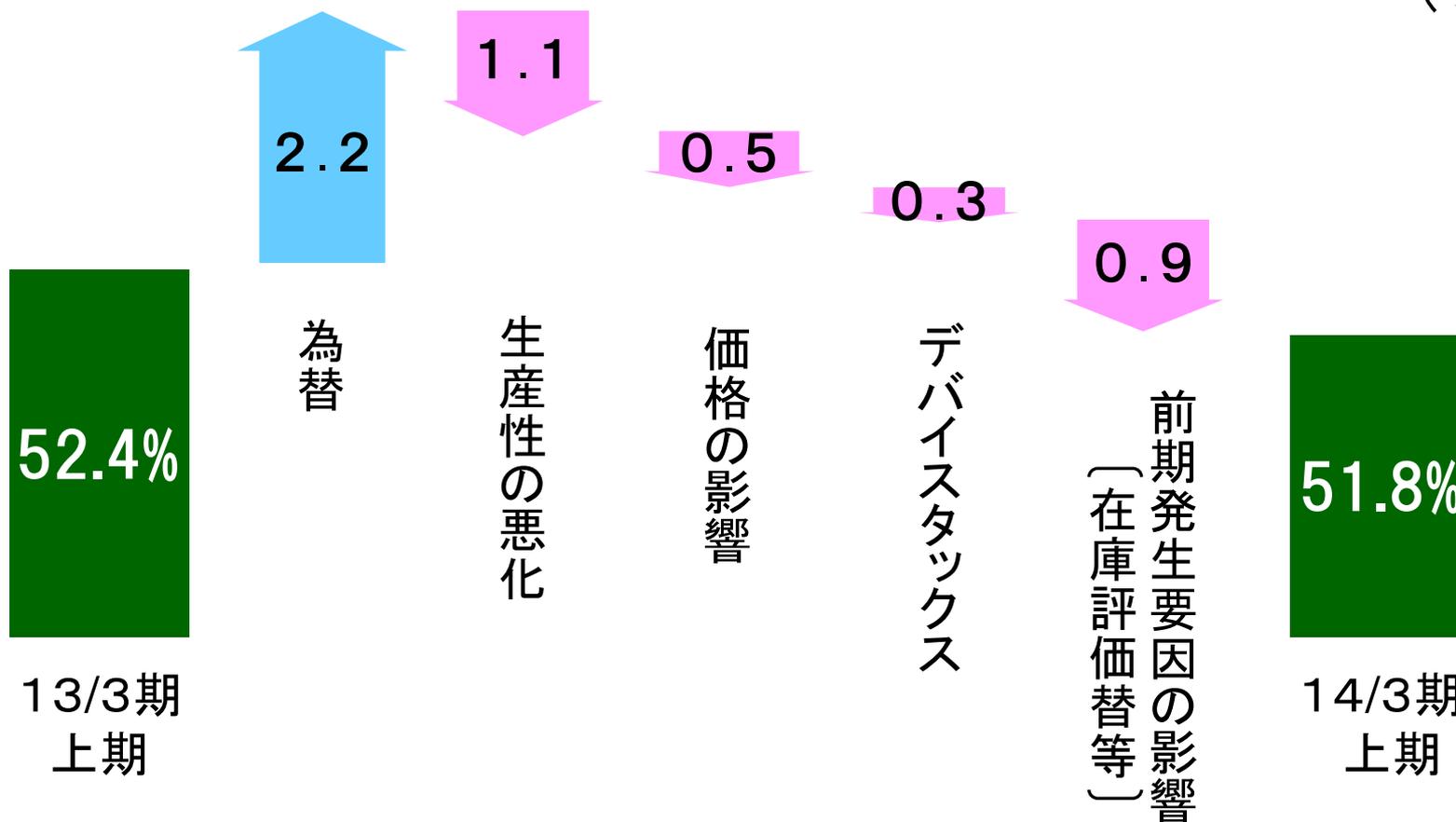
(億円)

事業 セグメント	日本	海外 計	欧州	米州	中国	アジア	合計
ホスピタル	320 (2%)	97 (3%)	28 (-12%)	23 (-2%)	3 (-8%)	42 (20%)	417 (2%)
心臓血管	120 (8%)	386 (7%)	138 (7%)	161 (7%)	46 (24%)	42 (-5%)	506 (8%)
血液 システム	34 (-0%)	191 (6%)	60 (2%)	93 (6%)	10 (10%)	28 (14%)	226 (5%)
合計	475 (3%)	674 (6%)	227 (3%)	277 (6%)	59 (19%)	112 (8%)	1,149 (5%)

下段()内は為替影響除く対前年同期伸長率及び前年在宅事業を除く

粗利益率差異分析

(%)



(参考) Q1実績

53.9% +1.8 -2.2 -0.4 -0.3 -1.5 51.3%

販管費

(億円)

	13/3期上期	14/3期上期	増減	増減率
人件費	254	313	+59	+23%
販促費	57	70	+13	+24%
物流費	50	54	+4	+8%
償却費	86	109	+23	+27%
その他	152	168	+16	+10%
一般管理費計	599 (31.2%)	714 (31.5%)	+115	+19%
研究開発費	124 (6.5%)	153 (6.8%)	+29	+23%
販管費合計	723 (37.7%)	867 (38.3%)	+144	+20%

()内は対売上高%

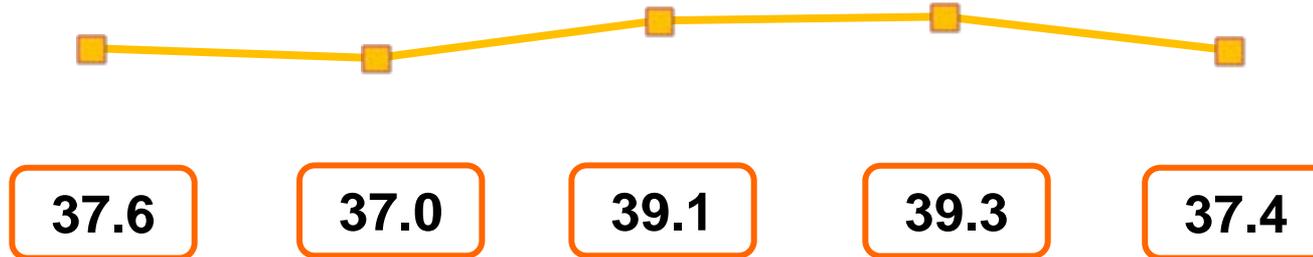
粗利益率、販管費率、営業利益率

(%)

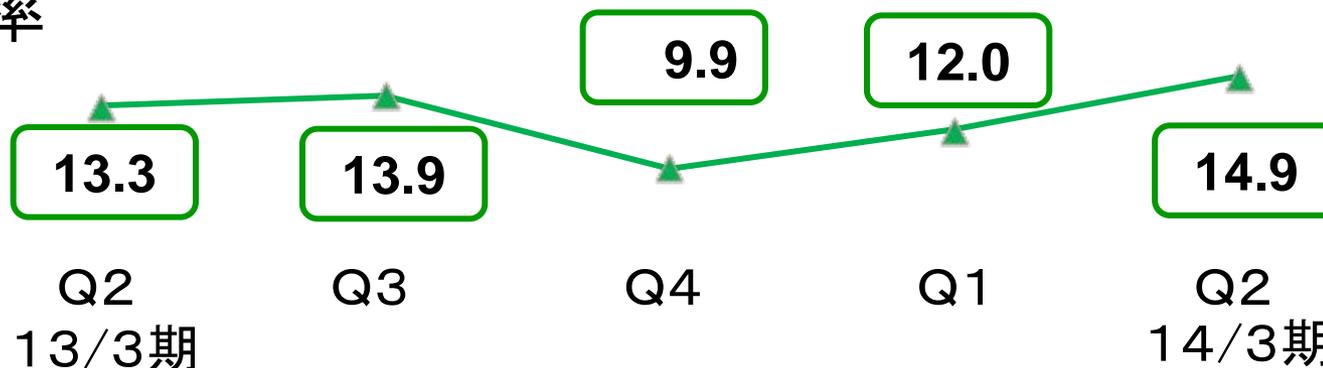
粗利益率



販管費率



営業利益率



(各四半期の3ヶ月単位)

設備投資と研究開発費

(億円)

	13/3期 実績	14/3期 見通し	14/3期 上期実績
設備投資*	322	450	252 (56%)
償却費*	326	370	189 (51%)
研究開発費	271	300	153 (51%)

* のれん・無形資産含む
設備投資は取得ベース

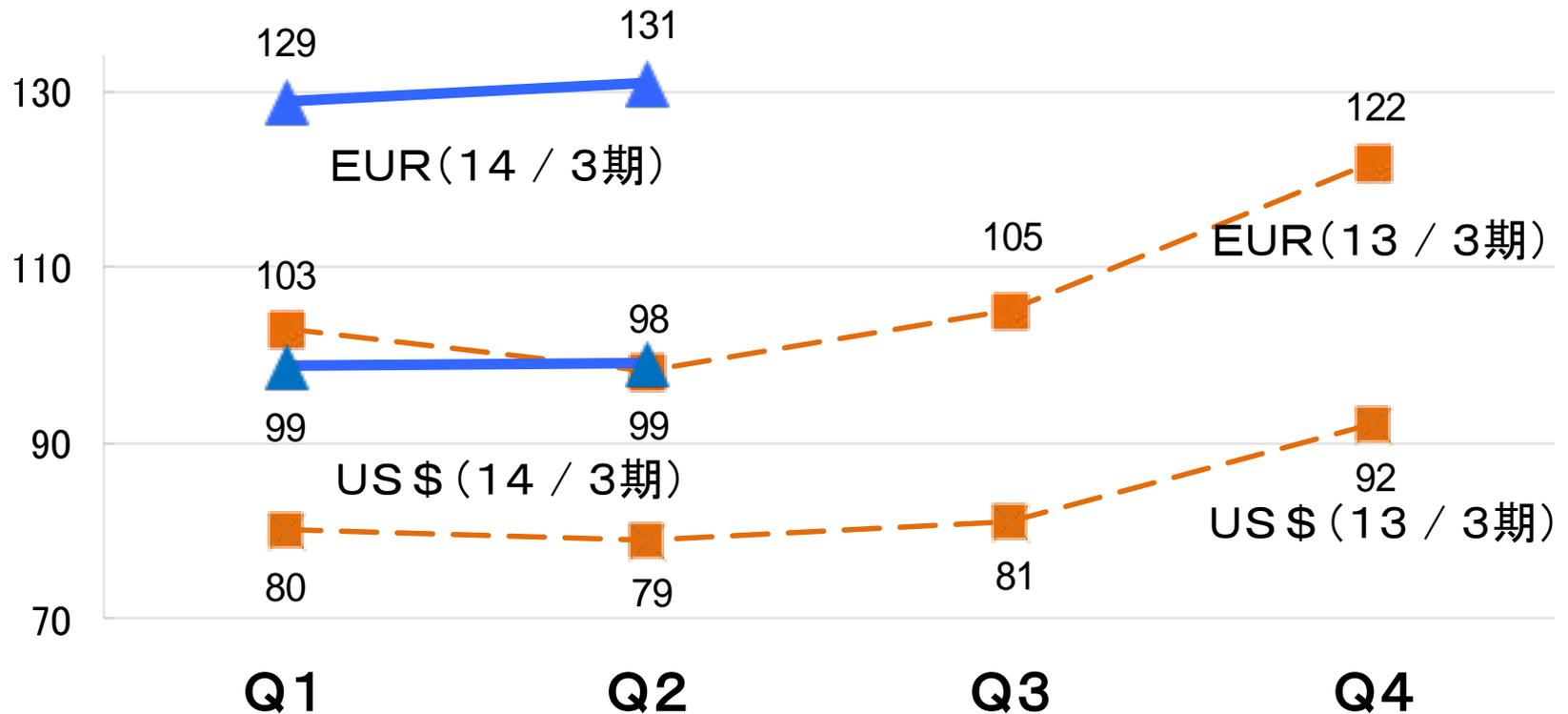
%: 対年間見通し割合

為替感応度

(億円／年)

	ドル	ユーロ
売上高	18	7
営業利益	3	4

四半期平均為替レートの推移



(各四半期ごとの期中平均レート)

おことわり

テルモの開示資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。様々な要因により、実際の業績等が変動する可能性があることをご承知おきください。実際の業績に影響を与えうる重要な要素には、テルモの事業領域を取り巻く経済情勢、為替レートの変動、競争状況などがあります。